

市

民

の

声



川辺町 平山
中 蘭 真 幸

6次産業で 市活性化へ

我がまちは、日本屈指の仏壇の産地です。近年の住宅事情、生活様式等の複合的な要因で低迷期が続いております。その様な折、昨年末仏壇組合に行政より、ふるさと納税返礼品の制作依頼がありました。我々職人集団は7工程の技術が集約し、一本の仏壇が完成します。その技術を駆使して何か出来ないものかと思案錯誤しながら、少しずつではありますが仏壇に代わる工芸品が出来上がっています。

ふるさと納税では、自治体にお金が入るだけではなく返礼品を調達するにあたり、地元企業にお金の流れ、雇用が生まれ従業員賃金となります。さらに家計の消費に反映されることにより、市が活性化される事を願います。

この度、県知事も代わり農畜産物等のトップセールスを図ることを公約で挙げておられます。それを成し遂げるには、我が市には良い農畜産物、工芸品が沢山あります。片田舎の魅力を掘起こし、全国にアピール、発信出来る自治体の、市議会議員、市職員の活躍に期待したいと思っております。



原田 弘 志

地域の魅力の発信

場所を残すには最後のチャンスかもしれないと思い、商店街にある古民家の再生に取り組み始めました。最初は、少人数で始めた小さな点が、今では大学、高校、女性部、都会の若者、商店街、地域の若者と大きな輪に広がっています。

その取り組みをフェイスブック等で発信していると徐々に視察や研修が来るようになりました。もちろん大野岳や番所鼻自然公園等が整備されたこともあり、地域の魅力や活動を発信していることが繋がっていると思われまふ。最近では雪丸地区の有志の方々が真田幸村のお墓の伝説を発信し、県内外から観光客が訪れるようになりました。

これからの日本を支える労働人口は先細りし、売り手市場による影響で地方の若者はさらに都会へ流出することが懸念されます。逆に都会で働く若者は地方の自然が溢れる環境の中で距離や時間に左右されない新しい働き方で移住を考えている方がいるのも事実です。このような中で私たちができることは地域の隠れた魅力を再発掘し、発信することではないかと思っております。それにより、移住によって少しでも町の人口が増えるかもしれないと、都会に出た子ども達も戻ってくるかもしれないと。そのために再生した古民家を拠点に様々な世代や地域内外の方が交わる場を提供し、情報を発信しながら顕娃の良さを感じてもらえればと思っています。そして何より未来ある子ども達が胸を張って誇れるまちであるように願っています。

編集後記

議会広報委員は「聴く力」が試されると痛感します。

議会だよりの紙面は限られております。ですから、議会だよりの編集作業とは、市長や議員の発言を理解し、既定の文字数に収める作業とも言えます。議会での発言を「聴く」ことができれば、正しい記事は書けません。

「聴す」と書いて「ゆるす」と読むそうです。自分と反対の意見でも、相手を許す、すなわち相手の意を認めることで、言葉の真意がわかることは多くあります。相手を認め、意見に寄り添う。この姿勢が「聴く力」に大切だと感じています。

▼広報編集委員会

委員長 西 次雄
副委員長 鮫島 信行
委員 日置 友幸
大久保 太智
浜田 茂久
満留 秀昭



◎発行：鹿児島県南九州市議会
TEL 0993(83)2511

◎編集：議会広報編集委員会
FAX 0993(83)4658

◎発行責任者：蔵元 慎一

ホームページ <http://www.city.minamikuwana.jp>